

2017年のノーベル物理学賞は重力波検出に貢献したアメリカの物理学者3名に送られることが決定しました。さらにはノーベル物理学賞受賞を祝うかのように、LIGOとVIRGOのチームが2つの中性子星の合体による重力波を捉えることに成功したとのニュースが10月中旬に発表されました。LIGO-VIRGOでの重力波検出直後に世界中の専門家へメッセージが送られ、世界各地の天文台の望遠鏡が一斉にその方向を向いて観測を始めたとのこと。その結果として、中性子星の合体イベントについて重力波だけでなく、様々な波長帯の光によって複合的に観測されたということです。全くの門外漢ながら、夢のあるわくわくするようなニュースが物理から発信されており、大変嬉しく思います。ところで、ネットで「重力波」などというキーワードで検索すると、膨大な数の解説記事や動画があることに気づきます。その中には、専門家の方々がTwitter、YoutubeやSNSで工夫をこらしながら、アインシュタインの予言に始まる100年にわたる壮大な物語や、LIGOによる重力波検出の「凄さ」についてわかりやすい言葉で解説されたものもあります。(広い意味での)物性に目を向けても、量子コンピュータや機械学習、トポロジーなどの話題が研究者のTwitterなどで飛び交っており、Youtubeでは海外を含む他大学の講義が聴講できたりします。このようなネットの良いところは、情報発信が容易でかつターゲットが不特定多数であるということと、受け手としてはリアルタイムで研究の最前線の息吹を感じとれるということでしょうか。実際に、一連の重力波のイベントの実況や解説を見ていると物理学者や天文学者の興奮が門外漢にも伝わってきます。

「物性研究」が電子版となって5年以上経ちました。発行頻度の変化なども一因にあるのですが、冊子媒体のときと比べて掲載原稿の数が減少しているように思われます。「物性研究」がネットのなかに埋もれていけないためにも、研究の熱や興奮が直に伝わるような原稿をもっとたくさん集めることができれば良いのですが。

T. M.